

研修医一括受け入れ

山梨日日新聞

1月12日
木曜日

発行所 山梨日日新聞社
〒400-8515 甲府市北口2-6-10
電話 (055) 231-3000
編集 231-3111 FAX 231-3161
事業 231-3133 出版 231-3105
広告 231-3131 販売 231-3132
©山梨日日新聞社2012年

産科医確保へ県内7病院連携

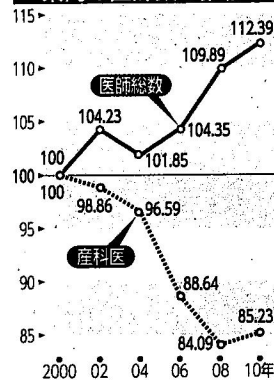
産科医不足の解消に向け、山梨大付属など県内で出産を取り扱う7病院は日までに、統一の研修プログラムを立ち上げ、来年度から産婦人科の研修医を一括して受け入れることを決めた。7病院が連携することで、不妊治療や子宮頸がん、高度な周産期医療など各病院の「得意分野」を幅広く学べることをアピール。これまでは都市部の病院を志向する傾向が強かった「医師の卵」の受け入れ増を図り、将来の産科医確保につなげたいと考えた。

今春統一プログラムで

研修医は2年間、各診療科を経験する初期研修を行った後、専門とする診療科を決め、3年間の後期研修で専門医の資格取得に必要な知識や技術を習得する。これまでは病院ごとに募集してきたが、研修医は環境の整った都市部の病院を志向する傾向が強く、県内の受け入れは低迷。現在、県内で学ぶ産婦人科の研修医は4人となっている。

山梨大などは研修医が研修後、受け入れ先で勤務する傾向が強いことに着目、研修医の受け入れ増を図ることで、

県内の医師数の推移



医師総数208人増えたのに…

産科は10年で13人減

山梨県内の産科医不足は、に対し、産科医は13人減っており、負担の大きい産科医がかかわらず、解消されない状況が続いている。厚生労働省の調査によると、2010年末時点の産科医(産婦人科医を含む)は75人で、2年前の10年前に比べ医師総数が208人増の1887人となったの

医不足を解消するには30人程度の増員が必要で、依然として深刻な状況が続いている。また、産科医のうち、実際に出産を取り扱っているのは7割にとどまっているとみられる。

産科医の減少に伴い、県内で出産できる環境は狭まっていく。04年には24病院・診療所(37・5%)減少。峡南、峡東、峡北、県東部地域は出産できる病院がないのが現状だ。

県は07年から医師確保策を本格化。県内の医療機関に一

定期間、勤務することを条件に返還を免除する奨学金制度などを導入し、医師総数は07～10年の4年間で155人増えたが、産科医は3人減少した。出産は時刻を過ぎないため勤務が過酷で、不測の事態が起きやすいことが、産科医離れの背景にあるとみられる。